

# 津月うしお

学校教育目標 「学びを広げ 自ら問い 高めあう」

洋野町立種市中学校  
平成29年度校報  
第23号  
文責 副校長 越田

## 後期生徒大会(その1)～真価が問われるのはこれから～

11月14日(火)後期生徒大会が行われ、前期生徒会活動の総括及び後期生徒会活動計画について話し合われました。前期の活動をベースに、新たな試みにが提案され、新執行部の、さらに種中を発展させたいという熱意、意気込みが伝わってきました。



今回の生徒大会が成功かどうかが分かるのは、これからです。何がどうなったことを成功と呼ぶのでしょうか？その形は何パターンかあります。活動によって成果があがれば、成功であることは、誰でも分かります。では、別の形の成功とはどのようなものでしょうか？

始める時、1年は長いと思ったけれど…

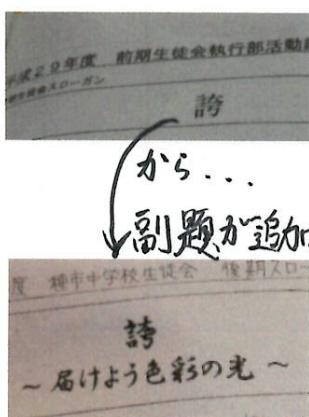


実は、活動したのに思ったような成果が出なかったということは多いものです。しかしそれは、失敗というわけではありません。なぜうまくいかなかったかについて、全校生徒が自分の考えを示し、執行部がそれを集約することで、解決すべき原因が見え、よりよい改善策を見つけることも、一つの成功だといえます。全校生徒の意思が反映された、全校による取組だからです。(後期生徒大会その2へ)

過去世みれば、あ、という間



これまで お疲れさまでした。



## 後期生徒大会(その2)～承認＝全面的な協力 そこから次へ～



今回、あいさつについての取組をはじめ、いくつかの『新しいものに挑もうとする』提案は、全て承認されました。つまり「協力する」ことを宣言したことになります。となれば、まずは本気でやってみるしかありません。

その取組の本質がどうなのかは、本気で取り組まないと見えないものです。実際にやってみたら,,, 思った以上に「うまくいった」「大変だった」のいずれにせよ、本気で取り組めば、言葉の重みや説得力が違います。(後期生徒大会その3へ)



新役員です。これから1年間、よろしくお願ひします！

## 後期生徒大会(その3)～同じ方法で違う結果は得られない～

「実際どうだったか」「学級の意見として」「中央委員会で執行部に伝える」とことで、執行部が「その意見を今後の活動に役立てようとする」という流れができれば、それは生徒会の新たな一歩となります。

方法を変えずに、異なる結果を求めるることは虫が良すぎます。後期生徒会執行部のそんな決意が、生徒大会で伝わってきました。

みんなの力で 種中をさらなる高みへ！

